

Q-14 人をつなぐ

生涯学習の活動をする人々が多くなる中で、学習者がその活動の範囲を広げるために、学習者のネットワークをつくりたいのですが、どのようなことが考えられますか。

Answer

はじめに

公民館を中心とする社会教育施設では、学級・講座への参加者や修了者、施設を利用する学習者にはたらきかけて、自主的なグループ・サークルへの参加や新たなグループの結成を促したり、地域住民の結びつきの深まりを図ってきました。特に公民館が行うこのようなはたらきかけは、生涯学習の時代といわれる今日、その重要性は増してきているといえるでしょう。

緩やかなつながり

コミュニケーション・メディア

人口が集中している都市を中心に、地域に住む人々同士のかかわりやつながりが希薄化しているといわれる一方で、技術革新の進展はコミュニケーション・メディアを進歩、発展させてきています。携帯電話やマルチメディアの急速な普及は目をみはるものがありますし、ファックスもすっかり家庭に入り込んでいます。さらに、パソコン通信への加入者の増加率も驚くばかりです。インターネットへの接続は、家庭に居ながらにして、世界と結ばれ、まさに「地球的規模での交流時代」を実感させるものがあります。パソコンを通じて「世界の友と交流できる」のは確かでしょう。また、最近の高校生にとってポケットベルやPHSは「生活必需品」ともなっています。いつでも、どこでも情報を交換し、自分の気持ちを伝え合っています。

しかし、本来人々の交流を支援する道具でもあるはずのコミュニケーション・メディアが進歩することによって、

地域に住む人々の人間関係が豊かになり、コミュニティの形成が十分に達成されているかといえば、「まちづくり」が課題になることなどを考え合わせると、必ずしも道具の進歩に対応しているとはいえないでしょう。

このような時代の人々の結びつき方は「ネットワーク時代の人間関係」としてとらえられるように思います。今日の社会では、「人々は緩やかなつながりを求めている」といえるのではないのでしょうか。

ここでは、学習活動の拡大を目指し、緩やかな人間関係づくりをどのように支援できるか、学習者の活動範囲の拡大ということをどのように考えればよいか、という点に絞って、そこに果たす公民館の役割や、支援の内容・方法などを考えることにします。

① 公民館が社会教育活動として培ってきたこれまでのノウハウ

冒頭で述べたように、公民館はこれまでずっと、地域における総合的な社会教育施設として、「地縁」による人々に対して、「集い・学び・結ぶ」という役割を大切にしてきました。その学習の機会の提供、学習の組織化、団体・グループの育成等は、社会教育としての財産でもありますし、今後も変わらない重要な公民館の役割であると考えられます。

また、公民館はそれらの事業や活動に加え、各種講座案内、グループ・サークルなどの団体一覧、地域の指導者一覧など、様々なデータベースも作成し、地域住民の学習情報の提供や学習相談に応じられる体制をつくってきています。このような、公民館が社会教育活動支援を行う中で、

コミュニティの形成

ネットワーク時代の人間関係

地縁

学習の組織化
団体・グループの育成

そのノウハウとして培ってきたものは、学習者のネットワークを形成する基礎ととらえられるのではないのでしょうか。そのように考えると、学習活動を拡大するための取り組みはすでに行われているともいえます。しかし、グループ・サークル結成の支援や、学習情報の提供・学習相談をすれば、学習者のネットワークができ、学習者の活動の範囲が拡大できるといえるのでしょうか。そこでまず、「学習者のネットワーク」の意味から考えてみましょう。

学習者のネットワーク ②「学習者のネットワーク」ということ

(1) 学習者の結びつき方

「学習者を結ぶ」というとき、その結び方・結ばれ方には様々なものが考えられます。顔を知っているとか、名前を知っているという関係もその一つですが、普通は、構造的・機能的に「未組織」といわれる地域の学習・文化・スポーツなどのグループ・サークルへの加入・参加、ボーイスカウトなど全国的な連合組織をもつような社会教育関係団体や組織への加入、スポーツ・クラブやカルチャーセンターのメンバーなどによる集まり・集合体などへの所属などを指します。これまでは学習者を結ぶというとき、このようになかりははっきりとした「組織」を新たに結成したり、既存の組織に加入させることでした。

地縁を中心とした組織化？

つまり、「地縁」を中心とした、組織がはっきりと存在していたといえます。ところが、「学習者のネットワーク」という場合は次のように定義(1)されます。

「学習をしているということ共通点をもつ学習者を、所属している組織や個人の生活空間などから受けるさまざまな制約を超えて結びつける組織である。」

ネットワークは確かに一つの組織ではありますが、従来の組織とはやや異なっている側面があります。「地縁」を必ずしも伴わないし、所属する組織の枠を超えて自由に交流できるような、「これまでの組織の制約を超えたかわりが可能な組織」であるという点です。そこで次に、「ネットワーク」の意味を確認してみましょう。

② 「ネットワーク」ということ

ネットワークという用語も様々な使われ方があります。ここで考えるべきものは、社会的なネットワークといわれるもので、なかでも、「組織間ネットワーク」ではなく、「個人間ネットワーク」です。それを定義すると、「ある目標あるいは価値観を共有している個人を様々な制約—例えば、既存組織への所属、個人の狭い生活空間など—を超えて結びつける一種の組織である」といわれます。分かりやすい言葉でいえば、メンバー相互がよりよい状態を目指しての「連携・協力関係」を柔らかに維持すること、と考えてよいでしょう。しかし、そのメンバーの「範囲」は必ずしもはっきりしません。

このような個人間ネットワークを学習場面にあてはめると、「学習者間ネットワーク」の特性は次のようにまとめられます。

- 学習するという目標が共有されている。
- 参加者は自由に参加できるとともに脱退することができる。
- 参加者の独立性と個性の尊重が他人との連帯や全体に対する貢献と結びついている。
- 権限と責任が分散されている。
- 多数のリーダーをもち、個々はすべて参加者をつなぐ側

ネットワークの意味

- 「組織間ネットワーク」
- 「個人間ネットワーク」

「学習者間ネットワーク」の特性

- 目標
- 自由参加
- 個性の尊重と全体への貢献
- 権限と責任の分散
- 多数のリーダー

であるとともに、つながれる側でもある。

このように、「ネットワーク」は広い意味では組織の一つですが、従来の「組織」という考えからではとらえきれない部分が含まれているといえるでしょう。

(3) 「学習グループ」との違い

「学習者のネットワーク」の特徴

では、これまでの「学習グループ」という「組織」と、「学習者のネットワーク」との違いはどこにあるでしょうか。「学習者のネットワーク」に顕著な特徴としては、次のような諸点があげられます。

○一定の役割分化に基づく組織性という点では権限と責任が分散されている：つまり、従来からいわれてきた、役員体制や、リーダーと援助者との関係があまり固定されていません。むしろ役割としては平等に分担しているところがあります。

○成員の行動や関係を規制する規範については出入りが自由であるという点で弱い：つまり、何らかの規約がある場合もありますが、それは目的達成のために力を合わせていやいやながら協同行動をとるとか個人の活動を制限するというものではなく、他人に迷惑を及ぼさないという消極的な最小限の規範である場合が多いのが特徴です。また、いつでも自由にメンバーであることをやめることができます。

○統一的なわれわれ感情や相互行為、社会関係の持続性と安定性が弱い：前項の特徴からしても、「組織」に所属しているという感覚はあっても、他のメンバーと同じように考えたり、行動するという事は必ずしもはっきりしているわけではありません。また、いつでも自由に加入・脱退できるところから、人々のつながりが強いとは

いけない場合があります。

- 協調関係の重視と、ネットワークの拡大を望ましいとする基本的傾向がある：従来、団体としての力量を上げるために、団体間を競わせることによって、その目的を達成しようという考えがありましたが、ネットワークは互いに競争し合うというよりは、互いの協調関係、合併などネットの拡大を重視するといえます。その意味では、必ずしも「地縁」を成立基盤としているわけではないこともあげられます。

このような点があるわけですが、冒頭でみたような今日の人間関係のもち方などから考えて、重要な点は、「ネットワークは一定の秩序をもち、ゆるやかではあるが組織としてのまとまりをもっている」ところにあるということです。

③ 学習行動のプロセスとネットワーク形成のメリット

学習者のネットワークを何のために築くのかといえば、学習者自らの学習や行動を拡大するためです。そこで、学習や行動の拡大とネットワークがどのようにかわるかをみてみましょう。

(1) 学習のプロセス

学習者の一般的な学習行動を考えると、そのプロセス、ステップはおおよそ次のようなものでしょう。⁽²⁾

- 「何かしたい」という学習動機をもつ。
- その動機に支えられて、情報を調べたり、相談したり、見学したりする。
- 「自分のしたいことはこれだ」と自覚する。
- 自ら主体的に判断・決定を行い、教材を選択する、指導者を決める、学習場所・時間などの確保、講座などへの

学習のプロセス

学習活動の発展

申し込み・登録を行う。

- 自らの条件に合う、ふさわしい学習活動を実践する。
 - 学習の深化・発展、学習成果の発表、学習成果の活用を図る。
 - 一人一人の知識・技術・能力の向上、生きがいの達成。
- (2) 学習のプロセスと学習活動の充実・発展

学習者の活動範囲の拡大

このような学習行動のプロセスの中で、「学習者が活動の範囲を広げる」ということはどういうことでしょうか。学習のプロセスの各段階は、自分の力で各段階を進めることもできますが、学習相談に出向いたり、指導者を仰いだり、他の人とかかわりの中で学習が進んでいきます。「学習者のネットワーク」は、このような学習情報を必要としたり、指導者を必要としたり、意思決定の参考材料を探したりする場合に、援助や支援を行うものとなります。学習者の活動範囲を広げることとして、ここでは三つのことが考えられます。

- ①学習機会についての情報が必要なとき、その情報を得る援助がしてもらえらるということでしょう。そのことによって、適切な学習機会を選択できます。
- ②疑問の解消や、次の段階への取り組みの示唆など、学習活動の充実・深化が図られることがあげられるでしょう。その他にも、学習目標などの確認、学習素材の認識、様々な学習機会の認識、指導者や学習者の存在の認識などがあります。的確な情報とアドバイスは学習を発展・深化させます。
- ③学習活動を行い、その成果を何かの形で生かしたいと思った場合に、その活用の仕方を示唆してくれることがあげられます。活躍の場の認識があれば、活動範囲

は拡大するでしょう。

(3) ネットワーク形成のメリット

では、そのような学習者のネットワークを形成することのメリットはどこにあるのでしょうか。学習者の活動範囲の拡大もメリットになりますが、学習者のネットワーク形成にポイントを絞ってみると、次のような事柄がメリットと考えられます。

- 学級・講座開催中のネットワーク形成とその利用は、学習の深化、発展を支援する。施設に恒常的なネットワーク形成は、学習者と施設を結びつけると同時に、学習動機を強めたり、支持する。
- 利用している施設の学習資源に限定されたり、ともに学んでいる学習者のみならず、他の施設や知人などとの連絡がとれるため、外部資源の有効活用ができる。
- 対応や情報の伝達など、スピード性が高い。

ネットワーク形成のメリット

④ 公民館が生涯学習機関として活動を拡大するために

(1) 個人間ネットワークを支持する施設間ネットワークの形成

生涯学習社会の形成という時代の要請の中で、公民館など社会教育施設、生涯学習施設の広域利用が望まれています。⁽³⁾さらに、生涯学習社会の重要な要件として、学習成果をどのように評価し、学習した成果を人々が活用するためにどのような仕組みをつくるべきかが、現在重要な課題となっています。そのための試みの一つとして、地域の中では、情報提供や学習相談体制の整備を図り、「人材バンク」をつくるなどしています。しかし、公民館が単独でこれらの体制づくりを進めても、十分とはいえないでしょう。イ

公民館活動の拡大

- 施設間ネットワークの形成
- 公民館と学習者のネットワーク
- 学習者ネットワークを形成する支援

インターネットの利用にみられるように、より広い世界とのつながりを既に人々は体験し、知っているのです。

(2) 公民館と学習者のネットワークとのかかわり

公民館が学習者のネットワークの形成を支援する前提として必要なことは、公民館相互の施設としての組織間ネットワークの形成を行うことでしょう。そしてさらに、他の生涯学習関連施設などのシステム化、連携・協力関係の形成を図ることが大切でしょう。その中で、学習機会、人材バンク、情報交換メディアなどを共有しながら、「学習者のネットワーク」化を図るべきではないでしょうか。

ネットワークは学習者個人によって、様々な形態、方法、大きさ、意味づけなどがあります。すべては把握できないにしても、利用者である学習者のネットワークに公民館も加わっていることが望ましいのではないのでしょうか。学習者のネットワークは、情報伝達網でもありますので、そこへ公民館が情報を流してあげることによって学習が促進する場合がありますと思われる。公民館でも、「友の会」のような施設を中心とする恒常的な「学習者のネットワーク」も必要でしょう。ボランティアの受け入れなども、そのような「友の会」と連携しながら進めることも考えられます。日本海の石油流出事故の際のボランティアをみても、活動者は地域を超えた取り組みをしています。緩やかな組織づくりを目指し、学習者のネットワーク形成が望まれているといえるのではないのでしょうか。

(3) 学習者ネットワークを形成する支援

最後に、学習者ネットワークの主体は個々人であるという観点から、いくつか具体的に形成を支援する項目を考えてみましょう。

「学習者のネットワーク」化

ネットワーク形成の支援

- 何が自らの学習資源であるかを自覚してもらうこと。
- 情報交換や人間関係調整技術等を身につけてもらうこと。
- 学習集団やグループへの所属を強制しない。「知っている」ことを重視する。
- 学習情報の提供を重視し、気軽に問い合わせることのできる場所、人を用意する。
- 公民館活動通信員制度や友の会等をつくり、定期的に情報を流す。
- グループ・サークルのリーダーがもつ「縄張り意識」をなくす。
- 既存の連合会や連盟が、中心となり、緩やかなつながりをもつ人々を増やす。
- ボランティアを求むニーズ・バンクをつくと同時に、学習を積んだ人が活躍できる場所を開発する。

⑤ 学習者のネットワーク事業に関連する参考となる事例

以下に、愛知県吉良町、滋賀県甲西町、福岡県筑後市、宮崎県都城市の場合の事例を示す。これらの事例は、国立教育会館社会教育研修所編『生涯学習宣言市町村事例集(平成8年)』に掲載されていたものである。

【参考文献】

- (1)山本恒夫他共著『生涯学習の設計』実務教育出版、1995年
- (2)伊藤俊夫編『生涯学習の支援』実務教育出版
- (3)○生涯学習審議会社会教育分科審議会施設部会「学習機会提供を中心とする広域的な学習サービス網の充実について—新たな連携・協力システムの構築を目指して—(報告)」1994年9月20日
- 生涯学習審議会「地域における生涯学習機会の充実方策について(答申)」1996年4月24日

- ①事業名 生涯学習サークル・指導者ネットワーク「きらら達人ネット」事業
- ②事業のねらい 一芸に秀でた町の達人の発掘と紹介、生涯学習を楽しむサークルの紹介と相互交流を図る。
- ③事業主体(実施機関) 吉良町教育委員会
- ④対 象 主に町民一般
- ⑤事業概要及び特色

各分野におかる生涯学習サークル及び生涯学習指導者を登録し、サークル及び指導者によるネットワークを組織することにより、町民、団体、サークル等の求めに応じてサークル及び指導者を紹介するとともに、サークル、指導者相互の交流、情報交換、研修等の機会を設け、生涯学習の振興を図りたいと考えている。

ネットは平成8年1月創設したため当面の活動として、登録者を増やすことを念頭においている。

絵画や書道などの芸術・文化活動はもちろん、料理やパソコン、スポーツ、ボランティア等あらゆる分野の達人の登録を呼びかけている。こま回しや竹とんぼ作りなど遊びの達人も大歓迎している。また、趣味やスポーツの同好会やサークルにも登録をお願いし、仲間をふやしたい、他のサークルと交流したいという要望に応えたいと考えている。学んだり身につけたことを生かしたいと考えている方、新しく何かを学び始めたいという方や指導者がほしいというグループのために、学び始めのお手伝いをしてくださる生涯学習ボランティアを紹介し、生涯学習のまちづくりを推進させたいと考えている。

- ①事業名 甲西町民楽習ネットワーク事業
- ②事業のねらい 町民が身近な場所で小人数で自主的、自発的かつ相互に学習できるよう、指導者の発掘、養成、指導者と学習者の仲介、情報提供を行う。
- ③事業主体(実施機関) 甲西町教育委員会
- ④対 象 町民全般 (ただし指導者は町内在住もしくは在勤する18歳以上の者)

⑤事業概要及び特色

■学習ネットワークシステムの概要

生活のあらゆる領域において、何か学びたいとか身につけたいと願う人々が増えてきており、そのような願いに応えるため、自宅や地域の集会所など身近な場所で、好きな時間帯に好きな内容を、小人数で自主的・自発的に学べる相互学習のシステムづくりを目指します。

(1)事業の目的

○地域社会における交流の促進

☆新旧住民の交流の促進

☆趣味が共通する仲間づ

☆多くの経験の共有、場の共有

くりの促進

○学習機会のシステム化

☆一芸や特技、知識を持つ指導者の発掘

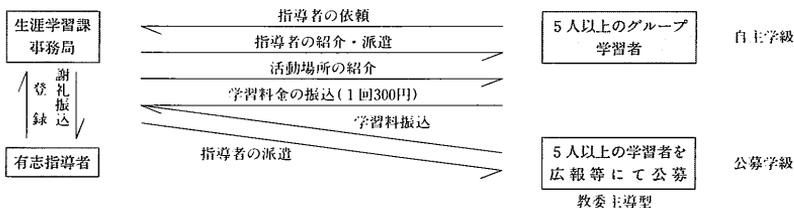
☆多様化する学習者のニ

☆人々の出会いの仲介

ーズ

☆相互学習の制度化

(2)事業のしくみ



(3)学習料および諸経費

○学習料は1回2時間を基準として一人当たり300円

○会場費、教材費その他の経費は学習者が別途負担

(4)有志指導者の条件、登録

○甲西町内に居住又は通勤する満18歳以上の人で教育委員会が主催する認定講習会を受講し、原則としてボランティアで学習指導を行う指導者を有志指導者として登録する。

なお、有志指導者には、一回2時間当たりの指導に対し、原則として3,000円を事務局が支払う。

- | | |
|-------------|--------------------|
| ①事業名 | 市民ふれあい学習ネットワーク事業 |
| ②事業のねらい | ボランティアによる生涯学習まちづくり |
| ③事業主体(実施機関) | 筑後市教育委員会 |
| ④対象 | 市内に在住または勤務している者 |
| ⑤事業概要及び特色 | |

市民が身近な場所において、小人数で自分たちのやりたい学習を自主的かつ相互に学習できるよう、市で有志指導者（ボランティア）の発掘養成を行い、指導者と学習者の仲介、情報提供等を行う。

有志指導者の活用によって、市民の相互教育、相互学習の機会を高めるとともに、連帯感や相互援助の精神を培い、もって活力ある地域社会の形成を目指す。

有志指導者は、所定の認定講習を受講し、教育委員会から認定された者で、有志指導者（ボランティア）として登録する。

学習者は、5人程度のグループを編成し、登録された指導者の中から希望の指導者を選び事務局に派遣要請する。

学習場所は、公共の社会教育施設や町内公民館等身近な施設を利用するか、又は自宅など身近な場所を利用する。

学習者は有志指導者に一定額の交通費を支払う。

- ①事業名 「よか・余暇・楽習ネットワーク事業」
- ②事業のねらい 生涯学習ボランティア指導者と学習者をつなぐネットワークの構築
- ③事業主体(実施機関) 都城市生涯学習振興協議会
- ④対 象 市 民
- ⑤事業概要及び特色
- 7人以上集まれば、いつでも・どこでも・だれでも・なんでも学べるシステム
 - 学習者は1人1回400円の学習料。ボランティア指導者には交通費として、1回4,000円を支給
 - 平成7年度は、168の学習グループ(1,115人)70人のボランティア指導者が活躍